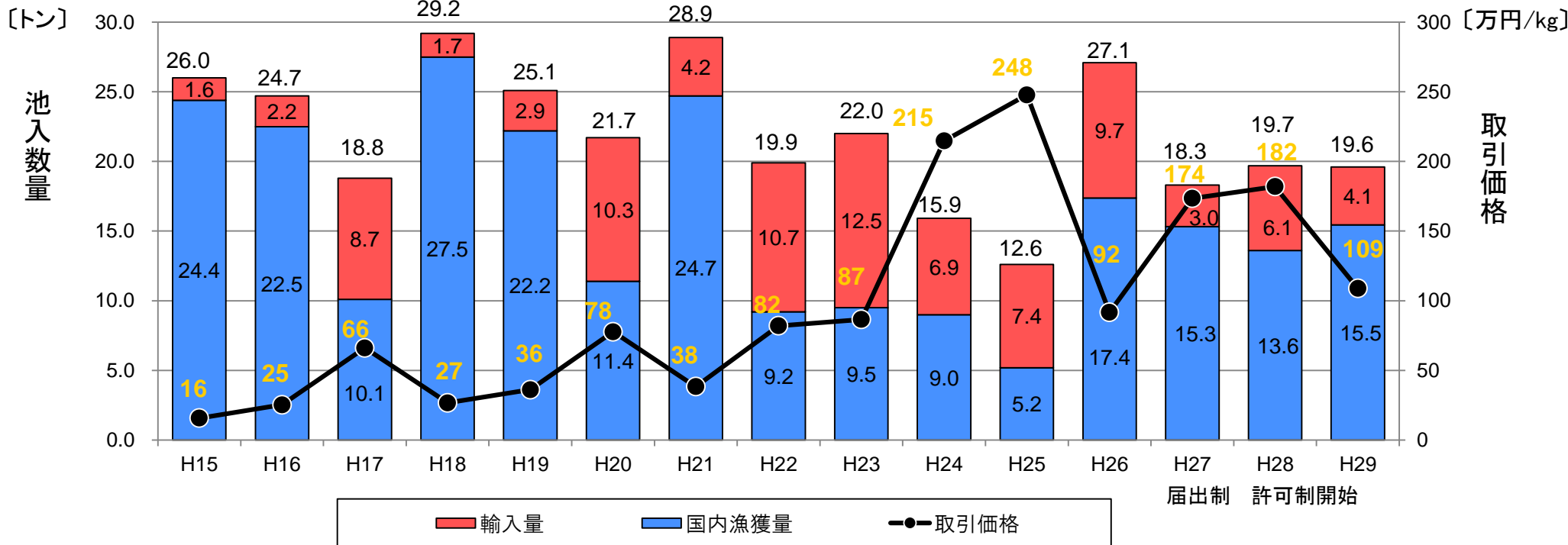


ニホンウナギ稚魚（シラスウナギ）の池入れ動向について

- ニホンウナギ稚魚(シラスウナギ)の国内漁獲量には年変動があり、漁獲量の不足を輸入で補っている。
- 平成24年漁期及び平成25年漁期は日本を含む東アジア全域でシラスウナギの漁獲量が減少したため、池入数量が大幅に減少し、取引価格は高騰。
- 平成29年漁期(平成28年11月～)の池入数量は、前漁期(19.7トン)とほぼ同等の19.6トンとなった。取引価格は109万円/kgと前漁期(182万円/kg)から下落した。

※ 平成27年漁期から、日本、中国、台湾、韓国 の4カ国・地域により池入数量管理を実施しており、平成29年漁期の日本の池入数量の上限値は21.7トン。漁期始めの漁獲量が多く、その後も安定して採捕されたことから、取引価格は下落したと考えられる。

■ ニホンウナギ稚魚の池入数量と取引価格の推移



注1: 各年の池入れ量は、前年11月～当該年5月までの合計値。平成15年～平成25年までの池入れ数量は業界調べ、平成26年～平成29年の池入数量は水産庁調べ、取引価格は業界調べ。

注2: 輸入量は、貿易統計の「うなぎ(養魚用の稚魚)」を基に、輸入先国や価格から判別したニホンウナギ稚魚の輸入量。採捕量は池入数量から輸入量を差し引いて算出。